

講義名	ドイツ語 / ドイツ語入門(2年生以上)			授業形態	
担当教員	森田 一平	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

ドイツ語を学ぶことはドイツとそこに暮らす人たちを知ることです。ドイツってどんな国、ドイツにはどんな歴史や文化があるのか、ドイツ人はどんなことを考えて、どんな生活を送っているのか、ドイツ語を学びながらそれらを感じ取り、推測したりしていきます。実際のドイツでの生活に使える身近な表現を学ぶと同時に文章を作っている規則を学んでいきます。

到達目標

名前、出身、住んでいる場所、職業、年齢、趣味、好きな飲み物、家や部屋の中の家具、事務所、商店や施設の名など実生活に必要な身の回りの事物が言えるよう語彙、表現を身につける。合わせて発音のトレーニングをする。表現、語彙学習を通じて名詞の性と冠詞、動詞の人称変化などの基本的文法事項の学習も進めていく。

提出課題

授業の復習として、教科書付属のワークシートまたは、教科書の内容を補うワークシートを課題として出す。課題は平常点として評価するので必ず提出すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出物は添付ファイルでメールに添付して提出（メールテキスト本文に書かない）。添削して返却するので返却されたものは関連った箇所をチェックしておくこと。

評価の基準

平常点（授業中のグループワーク、発言など） 10%
提出物 10%
筆記試験（中間試験 - 20%、期末試験 - 30%） 50%
口述試験 30%
試験では基本的に表現・語彙、文法規則などについて授業中に学んだことの成果を問う。

履修にあたっての注意・助言他

教科書は必ず購入すること。この授業で使う教科書は2024年の新版なので間違っても違う本を買わないように(書名とISBNを良く確認を)。

教科書	.ペーシック版 自己表現のためのドイツ語<ノイズ>	板山真由美 塩路ウルズラ 本河裕子 吉満たか子	三修社	2800	9784384123104
-----	---------------------------	-------------------------	-----	------	---------------

参考図書

その他

独和辞典は必ず持っておくように。例えば アクセス独和辞典 三修社

授業計画

1. ドイツとドイツ語圏の国、都市、あいさつの表現、授業で使う大切な表現、文字と発音
2. Lektion 1 自分について語る(自己紹介) 出身、職業、専攻科目、行く先、趣味、構内で飲み物を頼む表現、依頼とお礼の表現
3. Lektion 1 職業について語る・答える 文法学習 動詞の変化
4. Lektion 2 体調を問ねる・答える 文法学習 動詞の変化
6. Lektion 2 家族、友人、知人を紹介する
7. Lektion 2 文法学習 不規則な動詞の変化
8. 中間試験
9. Lektion 3 住居、部屋を説明する 家具、調度、読解 メール
10. Lektion 3 物や事務所を評価する、感想を言う 文法学習 定冠詞
11. Lektion 3 メール形式(呼びかけ、あいさつ、結びのことば) 文法学習 名詞の性、冠詞
12. Lektion 4 街の施設、建物、行く先の表現(前置詞)
13. Lektion 4 時刻の表現、練習問題(まとめ)
14. 期末試験 筆記試験+口述試験(第一グループ)
15. 期末試験 口述試験(第二グループ)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を重視します。毎回2時間程度の復習が必要です。教科書の練習問題などを課題として出します。付属の音声教材を聴くだけでもドイツ語の上達につながります。新出単語を書き出すなど各自で自分に合ったいるような方法を取りましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ドイツは経済的、政治的にEU・ヨーロッパの最も重要な国の一つです。ドイツ語学習を通じて、ヨーロッパ社会への理解を深め、国際的な視点を持つことに繋がります。他者との会話を通じて実社会で必要なコミュニケーション能力、対人能力を培い機会とします。これらの能力は商学部生に求められる音楽界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立ちます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ペアワーク、グループワークを多用し、発音、語彙、表現、文法などを教師がチェックします。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回出席が前提ですが、単位取得には2/3以上の出席が必要です。欠席1/3未満であっても連続して欠席しないように。発音にしろ表現や語彙、文法に日々の積み重ねが重要です。